

(3) 海峡アトリウム

<演出モード③ 360度多重スクリーンでの演出 海峡多重スクリーン>

海峡ドラマをダイナミックにみせる！

アトリウムに数十枚のスクリーンを組み合わせた360度の巨大スクリーンを配置し、スクリーン全体を使って迫力ある海峡ドラマを体感できます。

演出イメージ

多重スクリーン全体を使って、歴史、自然、文化、人間の営みといった海峡ストーリーを展開



激しい潮流



豊かな生態系

(3) 海峡アトリウム

<演出モード④ スクリーンインサイド演出>

海峡ドラマを異次元の空間で体感する！

足元から、天頂まで広がるスクリーンに包まれた、これまで体験したことのない映像空間の中で、海峡ドラマを体感できます。

演出イメージ



例えば、壇ノ浦の戦いでは水中から船団を仰ぎ見たかと思えば、水面では弓矢が飛び交う激戦の最中に紛れ込み、さらに空中から戦いを俯瞰するといった通常では体験できない様々な位置からタイムスリップ映像を楽しめます。

(4)【3階】海峡歴史回廊

展示環境を大幅リニューアル！

人形アートを海中世界にきらめく幻想世界で輝かせます

国内外の著名な人形作家が制作した作品を引き立たせるため、明るい海中世界にリニューアル。海峡ドラマの雰囲気高めるとともに、人形の表情をいきいきと魅力的に見せます。

演出イメージ



演出用紗幕

透過型の布を天井から懸垂し、海中を想起させる光を当てることで、空間全体を海中の雰囲気にしめます。光を面で受け止めて、空間を明るく感じさせる効果があります。



床演出照明

床に海中をイメージした揺らぎのある照明を当てます。海中を歩いている雰囲気をつくりながら、足元をほんのり明るくします。

(5)【2階】海峡体験ゾーン

2階を海峡体験ゾーンにリニューアル！

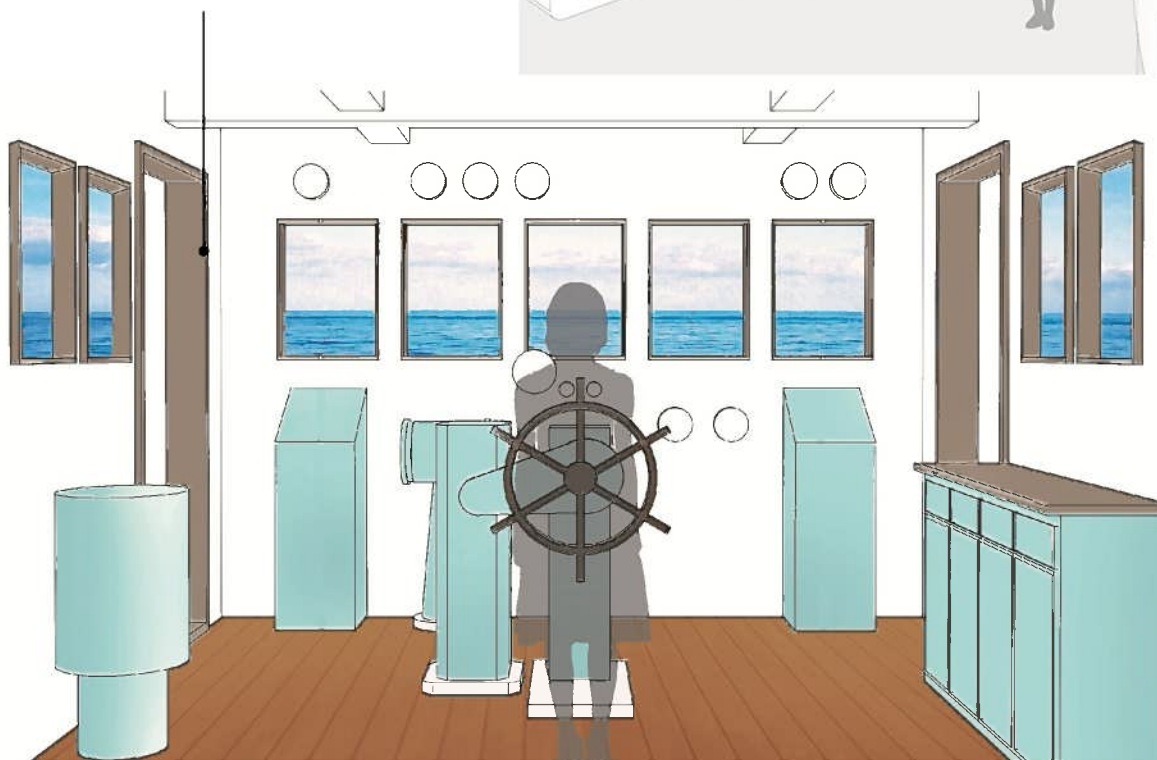
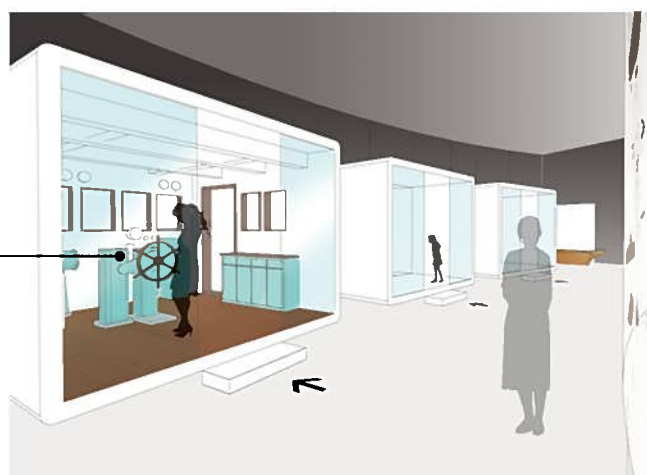
操船、海運、生物といった海峡の仕事、自然をリアルに体験します

2階の旧レストランスペースは体験空間にリニューアルします。海峡の操船の苦勞、世界を行き交う海運システムといった海峡で働く人々の高度な技術を体験するとともに、関門海峡に生息する魚や生物の生態を、例えば釣りゲームなどを通して、楽しく学びます。

体験アイテム：操船シミュレーション

【体験アイテム検討案】

操船室をリアルに再現した個別ブースで操船体験。異なるタイプの船を実際に操縦しているような臨場感で、関門海峡を航海する難しさを体験します。

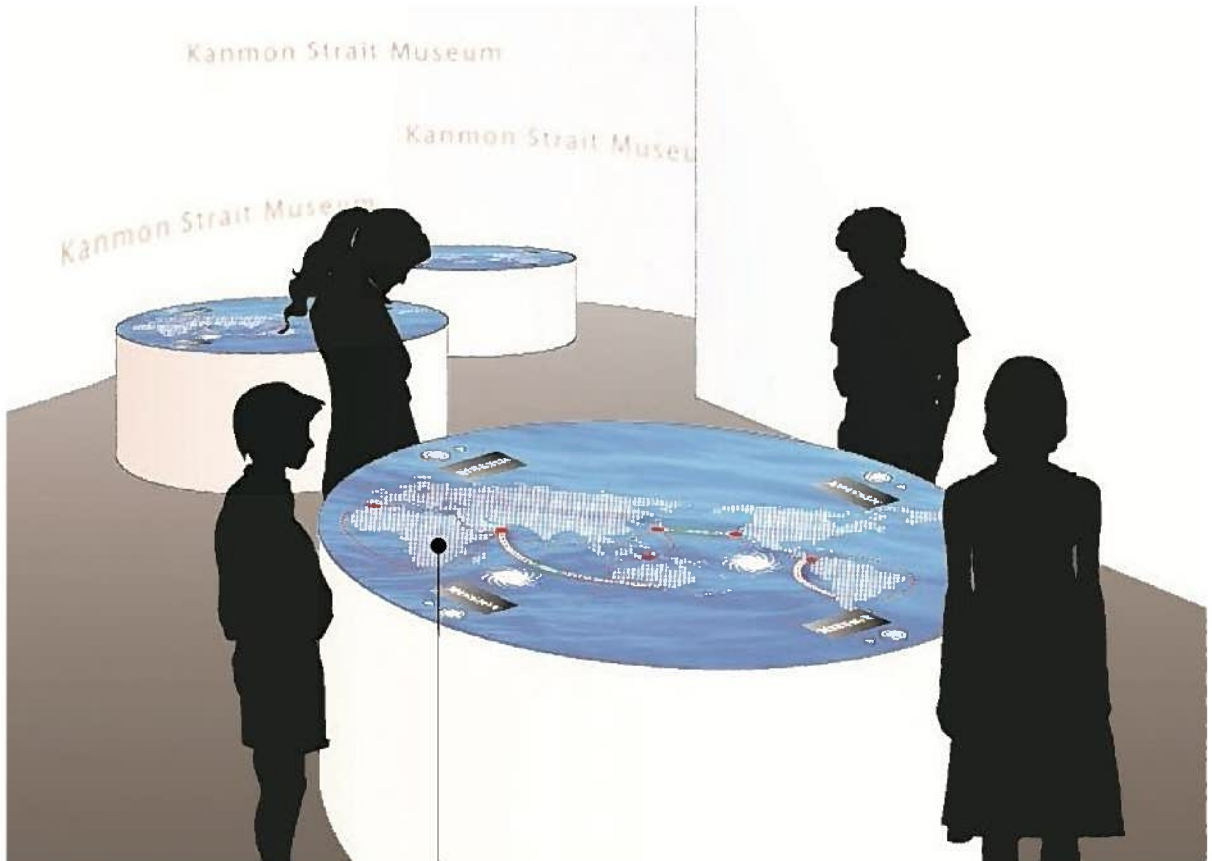


最先端のCG技術を駆使して臨場感の高い仮想操船空間を実現。お気に入りの船を選び、潮流、天候、交通量など様々な条件の中で操船体験を行います。

(5) 【2階】海峡体験ゾーン

体験アイテム:海運オペレーションデッキ

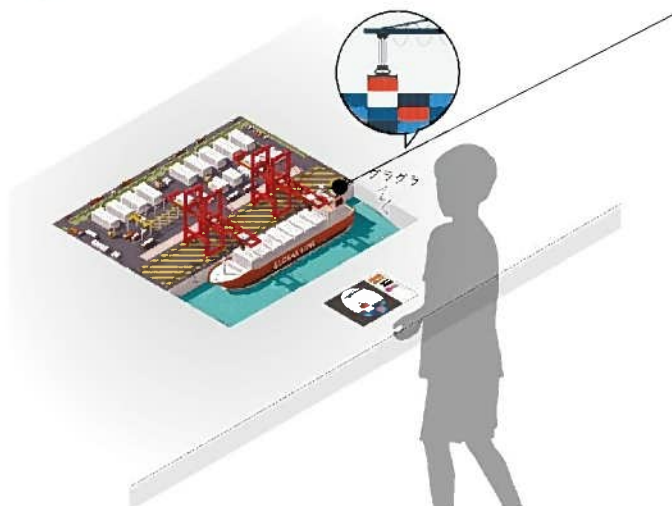
【体験アイテム検討案】



世界の海運システムをゲームで体験。行き交う船や潮流を読みながら海峡を渡るリアルな設定で海運への理解を深めます。

体験アイテム:コンテナクレーンゲーム

【体験アイテム検討案】



積荷のバランスをキープしよう！
ゲーム感覚で、コンテナ船のヒミツ
を学びます。

(5) 【2階】海峡体験ゾーン

体験アイテム：海峡の保安・生物

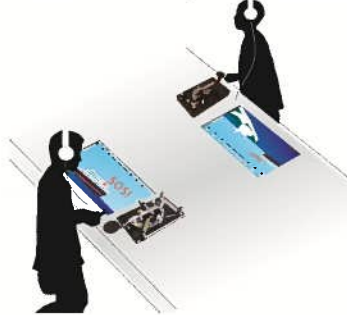
【体験アイテム検討案】

■手旗信号体験



手旗信号の正確さと速さを競う！動作センサーで動きをとらえます。

■モールス信号体験



モールス信号でミッションにチャレンジ！正確な信号送信がミッションクリアのカギ。

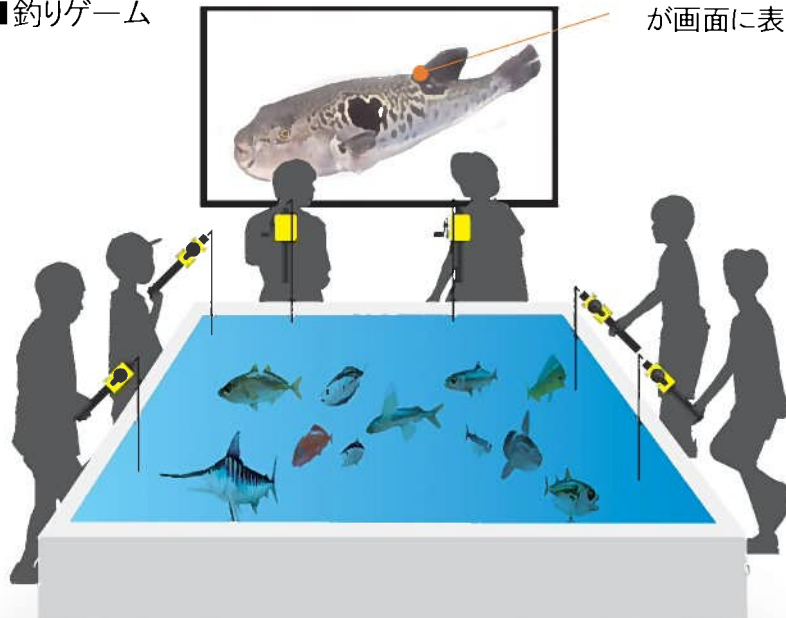
■顔ハメガラス



顔ハメガラス

ガラスの後ろに立てば、即座に制服気分！写真を撮りたくなる展示です。

■釣りゲーム



釣り上げた魚の名前や生態が画面に表示されます。

リアルな釣りゲームを通じて関門海峡の生態系を学ぶ！

手旗信号や釣りゲームなどを通じて、関門海峡の仕事や生態系を学びます。保安・生物をテーマとした充実の体験コーナーです。

(6)【1階・2階】 海峡レトロ通り

海峡レトロ通りをもっとパワーアップ！

大正浪漫をリアルに体験する仕掛けをつくります

検討案

■大正写真館

昔の写真館の雰囲気再現、当時の衣装をまとうて優雅な気持ちでレトロ通りをお散歩。「ハイカラさん」スタイルで写真を撮ることができます。

■喫茶スペース

モガ、モボで賑わう、どこか舶来の雰囲気のする喫茶スペース。大正浪漫あふれる門司港が体感できます。

※モガ・モボ: 1920年代の若者の流行の一つ。「モダン・ボーイ」「モダン・ガール」の略で、西洋風のファッションが特徴。

■名画座

レトロな映画が流れる名画座を再現。レトロ映画の味わいを伝えます。

【レトロ通り イメージ】



(7)【1階】多目的ホール

特別展、企画展で門司港の魅力を満喫

海峡レトロ通りの多目的ホールは、海峡に関する特別展、専門家による歴史講座、地元の皆さんによる企画展など、来場者が門司港を好きになるイベントゾーンとして活用します。

実施例

- 海峡演劇祭
- 夏の企画展「海峡お化け屋敷」
- 大河ドラマ巡回展

(8)【5階】レストラン

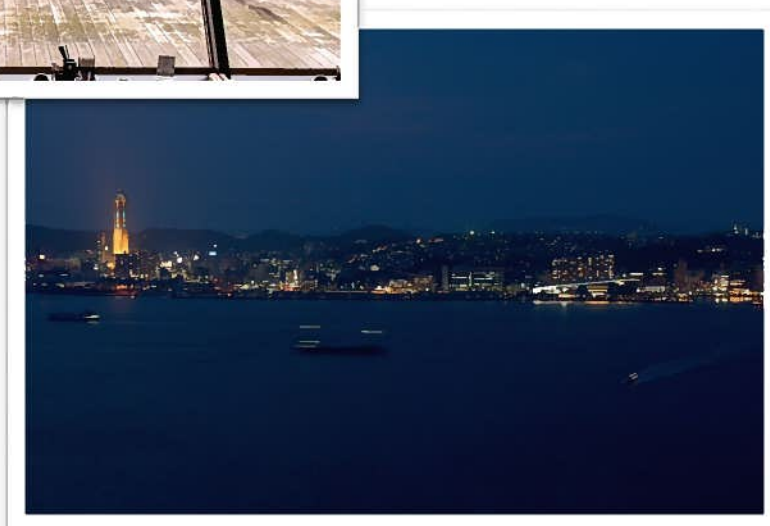
レストランは、門司港の風を感じ、食を満喫できる空間に

最上階は、展望レストラン。雄大な関門海峡の眺望と地元産の新鮮な食材を使った料理が満喫できます。関門海峡の夜景を楽しみながら、食事が楽しめる空間とします。

【5階レストランからの眺望】



【下関側を望む夜景】



(9) 海峡こども広場

船内探検をイメージさせるオブジェを加え、 「こども広場」の魅力をさらにアップ

「こども広場」に様々な船の設備をイメージした造作を追加し、あたかも船内を探検しているような空間を演出します。

検討案



(10) 玄関前広場、建物外観

誘導サインで、人々をミュージアムに招きます

遠くからでもはっきり見える館名サイン、イカリをモチーフにしたサインを設置するなど、来訪者をわかりやすくミュージアムへ誘導します。

検討案



遠くからでも目立つ館名サイン

ミュージアムの道なりに海をイメージさせる誘導オブジェ

Ⅲ. 周辺の魅力向上方策

1. 周辺の魅力向上方策の基本的考え方

関門海峡ミュージアムは、門司港レトロ地区の観光の拠点であり、地区内で最大の集客施設です。

今回のリニューアルでは、関門海峡ミュージアムの魅力向上とともに、その効果をレトロ地区全体に波及させることができるよう、

- ① 賑わいの空間をつくる
- ② 美しく楽しい景観で誘導する
- ③ まちを楽しく回遊する

という考え方のもと、レトロ地区の関係者とともに方策について検討します。

また、門司港駅内では、関門海峡ミュージアムの表示がしてあるものの、駅を出ると、レトロ地区中心部の反対方向にある関門海峡ミュージアムへの動線が分かりにくいことも、集客につながっていない要因の一つと考えられます。既設案内板の活用も含め、ミュージアムへ来訪者を誘導する方策を検討します。

周辺の魅力を向上するための方策 検討案	
①賑わいの空間をつくる	・夜間の魅力を向上させるライトアップ ・芝生広場、玄関前広場でのイベント開催
②美しく楽しい景観で誘導する	・バナーサインの設置 ・アートを活用 ・花壇整備 ・デザイン舗装等、快適な舗道の整備
③まちを楽しく回遊する	・夜間周遊バスの運行 ・無料Wi-Fi機器の設置 ・自動走行バス実証実験による移送サービス ・レトロなレンタサイクルの貸出し

検討案

建物をライトアップ。ロマンチックな雰囲気を作ります！

関門海峡ミュージアムをライトアップ。関門海峡をバックに巨大な船が浮きあがります。夜のレトロ地区を安心して楽しく散策でき、滞在時間の延長につながります。



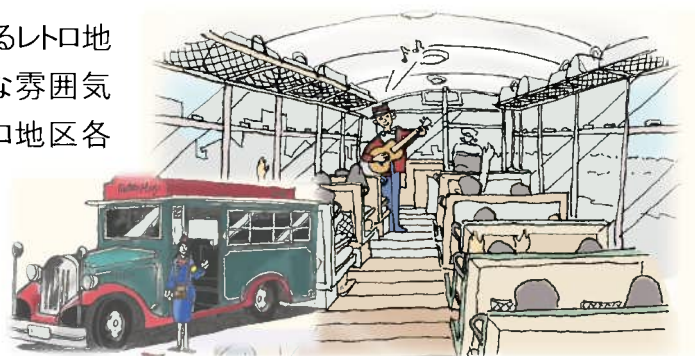
まちなかアートで道を飾る！気付けばミュージアムに到着！

門司港駅から関門海峡ミュージアムの主動線上に、アート作品を飾ります。有名アーティストとのコラボレーションや、市民によるアート展示など、様々な企画を工夫して、ミュージアムへ来訪者を誘導します。



門司港回遊レトロバスで、門司港の楽しさを発掘！

関門海峡ミュージアムを乗降地点とするレトロ地区をめぐる回遊バスを運行します。レトロな雰囲気のバスで快適に移動することができ、レトロ地区各施設の集客拡大にもつながります。



レトロなレンタサイクルで、まちなか回遊の楽しさを演出！

レトロなレンタサイクルの拠点を配置。まちなかをレトロ気分で楽しく回遊する仕組みを作ります。



IV. 管理運営計画

1. 運営の基本的考え方

(1) 運営の基本的考え方

関門海峡ミュージアムの管理運営に当たっては、施設のリニューアルの基本方針を踏まえ、

- ① 多くの人々が来館し、とりわけファミリー層が何度も訪れたいくなる施設
- ② 市民の活動拠点となり、市民とともに進化、成長する施設
- ③ 多くの外国人観光客が訪れ、快適に楽しむことができる施設
- ④ 民間のノウハウを取り入れ、効率的・効果的な運営手法を取り入れた施設

を基本的考え方とし、管理運営を行います。

(2) 広報方策・集客目標

① 広報・宣伝方策

● ホームページ等を活用した広報展開

ホームページ上で、展示情報、イベント情報、利用特典など旬の情報をきめ細かく発信するとともに、スマートフォン対応、多言語表記により、インバウンド客にも利用しやすいようにします。

● SNSを活用した広報展開

アトリウムでの臨場感あふれる映像をはじめ、展望カフェ、レトロ通りでのコスプレ体験など来場者が写真や動画をSNSで発信したくなるよう館内の見所にフォトスポットを検討します。

● 福岡県及び北九州市の観光部局と連携した広報・宣伝

福岡県や北九州市が実施する首都圏や関西、海外などでの観光広報事業の中で、観光主要スポットとして位置づけ、活発な観光プロモーション活動を展開します。

● 各種誘致活動の実施

歴史や海運事業を楽しく学べる施設として、修学旅行、社会科見学の候補地として、県内外の学校などへの誘致活動を行います。

また、旅行会社や鉄道、バスなどの交通事業者と連携した旅行商品の企画を働きかけます。

● 門司港レトロ地区各施設との連携

門司港レトロ地区の各施設とは、セット割引入場券の販売、共同ホームページやガイドマップの制作といったこれまで実施してきた相互利用促進施策を継続します。

② 集客目標

北九州市では、平成25年度に「市立自然史・歴史博物館」がリニューアルオープンしています。その前後で比較すると、入館者数は約1.7倍となっています。

また、全国の他の類似施設において全館リニューアルを行った事例を調査したところによると、1.2倍から2.3倍の伸び率となっています。

今回、関門海峡ミュージアムのリニューアルにあたっては、眺望のよい4階に観光案内所、カフェを設置し広く開放するなど、関門地区の観光の起点となれるよう、全館規模の改修を行うこととしています。現在無料ゾーンの入館者は、1階のレトロ通りに向かっていますが、今回のリニューアルにより、入館者数はまず4階の展望フロアに向かうよう動線を変更します。

このようなことからリニューアル後の総入館者数は、現状の48万人から約1.7倍の80万人を目指します。また、有料入館者については、開館当初の目標数を上回る25万人を目指します。

(3) 企画展、イベント等の開催による魅力向上

① 年間を通したイベント開催

関門海峡ミュージアムでは、これまでもゴールデンウィークや夏休み期間を中心に年間約30件の企画展、イベント等を開催し、門司港地区全体の回遊性向上を図ってきました。リニューアル後もミュージアムはもとより、エリア全体の集客及び回遊性の向上に資する企画展やイベント等の事業実施に努めます。

② テナント募集の考え方

● レストラン(5階)

雄大な関門海峡を望むレストラン。北九州市や福岡県産の農林水産物や食材を使い、食事を目当てに多くの人を訪れるようなテナントの入居を検討します。

例えば、クルーズ船の食堂を模した内装を施し、あたたかも船上で食事をしているような演出を行うとともに、家族連れでも手軽に入れる価格設定を検討します。

夜間は、関門海峡の夜景を楽しむレストランバーとして営業を検討します。

● 海峡レトロ通り(1・2階)

大正写真館、喫茶スペース、レトロ映画を味わう名画座については地元のまちづくり団体との連携による実施を検討します。

北九州市、福岡県ならではの地域色ある土産店や飲食店、雑貨店の入居を検討します。

(4) 市民の協力・連携

関門海峡ミュージアムは、市民とともに進化、成長し、地域活力の源泉となる施設を目指します。

例えば、関門海峡ミュージアム内の多目的ホールや海峡レトロ通りでのイベント開催や、芸術文化活動の発表の場として活用するなど、多くの市民が参画し、地域の魅力向上、またホスピタリティを発揮しやすい施設づくりを目指します。また、観光ボランティア等の活用についても検討します。

(5) 外国人観光客の利用促進

① 外国語による表記・解説

関門海峡ミュージアムでは、4ヶ国語(日本語、英語、韓国語、中国語[簡体字・繁体字])によるパンフレットを作成しています。平成27年には、個人所有のスマートフォンで同じ4ヶ国語の解説が聞ける「無料Wi-Fi音声ガイド」システムを導入しています。

リニューアルにあたっては、同様の機能を有することができるよう検討を行います。

その他の言語表記・解説についても、外国人観光客の利用状況に合わせて導入を検討します。

② インバウンド向けボランティアガイドの検討

観光ボランティア等の活用の中で、外国語(英語、韓国語、中国語)が堪能な人に、外国人旅行者向けの観光案内や展示解説を実施していただくことを検討します。

(6) 誰もが利用しやすいバリアフリーの向上

関門海峡ミュージアムでは、段差の解消、バリアフリー対応エレベーター、エスカレーターの設置、1階から5階までの各フロアに多目的トイレの設置など、誰もが快適に利用しやすい施設の整備を行ってきました。

リニューアルにあたっては、これまでの取組みに加え、動線を上から下に転換することで、長いスロープの移動負担を少なくするとともに、見学の際、サポートが必要な場合に気軽に相談できる体制を整え、さらに利用しやすい施設を目指していきます。

(7) 設備・機材の保守管理・更新

① 安全管理

今回のリニューアルでは、アトリウムや体験ゾーンを中心に新たな展示施設を導入します。入館者が安全・安心に施設を利用できるよう、導入する施設ごとに安全点検マニュアルを作成し、保守点検を徹底します。

利用者の安全が損なわれる施設・設備工作物に不具合が生じた場合は、安全対策を講じ、修繕や改修を行います。

② 設備・機材の長寿命化

設備・機材については、定期的に点検・整備を行うことで、故障の未然防止、長寿命化を図り、トータルコストの削減につなげます。

導入する施設・機材ごとに最適な定期点検計画、部品交換計画を定めます。

③ 展示ソフトの更新

入館者が何度も訪れたいくなるよう、今回のリニューアルでは、展示ソフト等をそれぞれ複数用意することとしています。集客状況、入館者の反応などを考慮しながら、3～5年を目途に展示ソフト等の更新を検討します。

④ 展示設備・機材の更新

設備・機材については、集客の状況、入館者の反応、老朽化に伴う維持管理費用、機器の部品補充期間等を踏まえ、適宜更新を検討します。

(8) 民間の管理運営手法の導入

関門海峡ミュージアムは、民間の創意工夫を活用し、効率的、効果的で、良好なサービスを実現できるよう、PPP(※1)手法の一つである指定管理者制度を既に採用しています。

リニューアルに伴い、施設の改修と管理・運営を一体的に行うRO方式(※2)の採用も考えられることから、現行の指定管理者制度と費用総額などを比較の上、適切な管理運営手法を検討。「PPP/PFI(※3)手法導入優先的検討規程策定の手引き」(平成28年3月内閣府民間資金等活用事業推進室作成)に定めるPPP/PFI手法簡易定量評価調書に基づき、指定管理者制度とRO方式の費用総額を評価した結果、VFM(※4)では、指定管理者制度の方が有利となります。

さらに、関門海峡ミュージアムは、指定管理者制度の長所を活かし、旧大阪商船、門司港レトロ観光物産館など門司港レトロ地区の8つの観光施設と一体的な管理運営を行っています。RO方式を採用した場合は、一体的運営についても再検討する必要が生じることから、総合的に考慮すると、現行の指定管理者制度を選択することが適切であると考えられます。

※1 PPP: 公民が連携して公共サービスの提供を行う仕組みのこと。

※2 RO方式: 公共施設の改修を民間が行い、その施設を管理・運営する方式。

※3 PFI: 民間の資金を活用して公共施設等の建設、維持管理、運営等を行う手法のこと。

※4 VFM: 支払いに対して、最も価値の高いサービスを供給するという考え方のこと。

